

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971800038		
法人名	川西町		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村受理日	平成27年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に住宅がなく、とても静かな環境の中で、皆さん穏やかに生活していただけるように取り組んでいる。手づくりおやつやランチなどの行事を行い、希望に合わせた外出等も行っている。周辺の畑作業に来られる方達から声をかけていただくことも多く温かく見守られる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、地方公共団体が設置し、社会福祉法人に委託され運営されています。大きな屋根は瓦で覆われ風格さえ感じられます。また、ホーム内は清掃が行き届いた明るく広い共用空間が確保され、季節を感じられる適度な装飾もされ、ゆっくり・穏やかに過ごせる場所となっています。利用者は、このような環境の中で、職員の優しい見守りの下、特技等を活かしながら一人ひとりのリズムで生活されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、実践につなげていけるように努力している。	理念を唱えるだけでなく、スタッフに自分のケアが利用者にとってどう影響するのかを考えながら対応されています。業務にとらわれず、ゆっくり接する事を、常にスタッフ同士で共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に住宅はないが、畑作業に来られる方達とは言葉を交わしている。幼稚園との交流が、年に数回あり、その他、地域のボランティアや子供みこしが訪問に来て下さる。	立地的な環境から日常的な交流は希薄感がありますが、幼稚園との交流など地域との関わりに広がりがみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や看護学校の実習を受け入れている。一般の方の見学は、随時受け入れに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進委員会を实地。二ヶ月分の報告、現状の問題点等について話し合い、協力あればお願いし、向上につながるよう努力している。	定期的な会議が開催されています。会議では、利用者の状況報告や質の確保・向上の意見交換等を行い、サービスに活かす機会とされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政が事業主体で、運営を委託されているので協力関係を、密に行っている。	事業所の設置主体が行政であることでもあり連携は密に図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修に参加し理解した上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害を正しく理解し、認識を深めるために研修を行い、実践に活かす取り組みをされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修に参加し虐待防止に努めている。注意し合うことで、職員同士で意識レベルの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はなく、活用は出来ていない。講習などに参加し、理解する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明は、行政と行う。職員は、家族の不安や疑問点を聞いたうえで、説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会や家族会で、意見や要望を聞く。また、面会時にも家族と話す時間を持ち、意見をきき、それを反映できるよう努力している。	家族の訪問時に意見・要望等の聞き取りやアンケートが実施され、寄せられた意見等を記録・検証し、運営に反映させる仕組みがあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、グループホーム会議を行い、意見交換や、提案する時間をつくり反映させている。	毎月の職員会議で、運営に関わる諸課題等について意見交換を行い、必要な事項は運営に反映する取り組みをされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に、福利厚生の方が整っており、働きやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、研修や勉強会があり、参加している。また、職場外の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで、同業者との交流をもち意見を交わすことで、勉強し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報収集をし、関わりを持つ中で耳を傾け、不安や困りごとを理解し、安心できる言葉がけや関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族や本人の思いに耳を傾け、困りごとや要望を聞き、話し合うことで安心していただく関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる支援が他にもある場合は、具体的に話し合いや説明を行い、必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の分担など可能な役割をもってもらい、食事などを共にして、日常の会話を多く持つことで、コミュニケーションを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等話をして、本人について家族と意見を交わし理解を深めることで、共に支えていく姿勢を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣に併設しているディサービスに知人が来られたら、顔を合わせ昔の話をされたり、馴染みの人や場所を日頃より会話の中に取り入れている。	安心・満足した利用を図る上で、馴染みの人・場所との関係の維持は極めて大切との思いがあり、隣に併設しているディサービスに出かけるなど支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで、一体化して楽しむ時間を持ったり、日頃のテーブル席の配慮や、職員を入れて会話するなどで独立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談あれば必要に応じて支援するなどの協力体制を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の時間をもち、本人の思いを把握し、希望や意向に添えるよう努力している。意思疎通の難しい方は、表情等でくみ取るよう心掛けている。	暮らしの中での言動からの意向把握や家族からの聞き取りをされ、一人ひとりの思いに応える支援に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の情報以外にも、本人と関わりのある方から話をきくなどで情報を集め、今の生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の表情の違いや体調の不慮など、小さな変化にも気づき把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要であればその都度担当者会議を行い、本人、家族の意向をふまえ、現状に適した介護計画を作成している。	介護計画作成とモニタリングの必要性を正しく認識し、適宜関係者が相談され、現状に合ったものとなるよう取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルやノートに記録し共有している。支援経過を作成し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況変化があれば、その都度家族に説明しその時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に出かけたり、地域ボランティアの訪問に参加するなどの交流をもち、楽しみながら暮らせる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人と家族の希望を最優先しており、受診時に必要な情報は、職員が家族やDrに伝えることで連携をとっている。	入居時に、かかりつけ医について相談し、本人の希望を優先されています。なお、受診に際しては、暮らしの様子等の情報提供をされ適切な医療確保が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や緊急時は、看護師へ報告し適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホームでの情報提供(サマリー作成)を行い、退院時には家族を含め病院にてカンファレンスを行い情報を共有する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向がある場合、話し合いの場を持ち、本人にとって必要なサービス提供の説明や支援を行うが、終末期については、現段階では対応していない。	利用者に変化が見られる時に、適宜関係者が相談し、支援のあり方等について検討する事とされています。なお、入居時に対応方針について説明し理解が得られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修や勉強会に参加し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実地している。緊急時の連絡、手順方法を把握し近隣の住民の協力も呼び掛けている。	定期的に消防署の指導の下に、消火・避難訓練を実施し、地域住民の参加に広がり協力体制が整いつつあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人間性を理解し、慣れ合いにならないような言葉かけや対応を心掛けている。	個人の尊重を利用者支援の基本に、職員一人ひとりが常に言動等に留意し行動されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や表情の中から思いや希望を感じとり、自己表現や主張を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のリズムを出来るだけ家で過ごされていたリズムに近づけるよう意に添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類のコーディネートと一緒に考えたり、外出時にお化粧をしたり、必要なら髪を整えるお手伝いをして、その方に合った支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを普段の会話から聞き出し、リクエストに応じて手作りランチや、おやつ作りを取り入れ一緒に作ったり、準備を楽しんでいる。	利用者と職員が食事の後片付け等に協力され、また、同じテーブルで職員も食事をするなど、楽しい雰囲気作りに取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のつくる献立で、バランスのとれた食事をとっている。食事量、水分量は個人の一日のトータル量をほぼ把握して、少ない時はチェックをつける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と、おやつ後にうがいをしている。義歯は夜間預かり、洗浄している。必要あれば口腔ケアの介助をする。昼食前には口腔体操をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、その方に合ったトイレ通いを行い、トイレでの排泄ができるよう習慣づけている。	排泄パターンの把握・記録と行動観察によりトイレ誘導を行い、自立排泄への支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や、適度な運動を行い、食物繊維を多く食事に取り入れ予防に努めている。個々の排便周期は把握して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕食前を入浴の時間としており、体調や気分に合わせて入浴日の変更など、個々の意に添って支援している。	一人ひとりの体調を勘案しながら、本人の希望を優先した支援が図られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の習慣に合わせて昼寝をしたり、使いたない寝具を使用していただき、個々合わせた温度調整や照明のコントロールをして、気持ちよく休んでもらえるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋をもらい、個人ファイルに記録する他、薬の内容を閲覧できる状態にしている。薬の内容を把握したうえで、小さな変化にも気付くよう密に情報交換を行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から集めた情報や本人と話をすることで、趣味やしてきた仕事や習慣を聞き出し、好みの作業や遊びなどを生活に取り入れ、気分転換につなげる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望やその日の気分にそって、ドライブや散歩に出かける等の支援をしている。大衆演劇や、ドライブツアー、外食などで家族や地域の方にも協力してもらいながら出来ている。	外出により受ける身体的・精神的効果を認識し、天候や体調の様子を見ながら、周辺の散歩・ドライブ・大衆演劇等、外出機会の確保が図られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はほとんど職員が行っているが、使い方の流れや、残金の説明を行い、外出時や必要な際は、本人に支払いをしてもらうなど力に応じて支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	二名の方が、携帯電話を所有しており、自室で自由に家族と電話されている。みなさんと年賀状を作成したり、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画を飾り、窓が多く、外がよく見えるフロアーになっており、室内からでも植物や花が見える工夫をしたり、食事時はリラックスできるBGMを流すなどして、空間づくりに努めている。	共用空間は、清掃が行き届き清潔感が溢れています。また、採光や室温管理の工夫と利用者の作品の装飾をされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室でテレビを見たり、昼寝をする方も多く、フロアーは集いの場であり、特に席を決めることはせず、気の合った者同士で会話をされたり思いのままに過ごしていただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にある物を持参してもらうよう家族にも協力を呼びかけ、寝具や椅子など、使い慣れたものを活かして、安心して過ごせる工夫をしている。	使い慣れた家具や好みの写真等が持ち込まれ、利用者が安心して過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで、安全に移動している。自身の力を使い生活できる言葉かけや、見守りを行っている。		